

# 海外における女性のキモノの表象 —「見る」「見られる」「見せる」の歴史人類学—

安土桃山時代に初めてヨーロッパに紹介された女性のキモノは、武士の鎧兜や刀剣とともに日本文化を象徴する存在となった。今日でもキモノを纏った芸者や舞子が満開の桜の下でポーズをとる姿は、海外における日本を代表する風景の一つである。

本発表ではこうした表象の歴史的経緯についてまず考え、そのうえでミュージアムの展示から雑誌の写真・おみやげ・街中の看板に至るまで、海外の日常生活におけるキモノの表象を検証する。

## 報告

桑山 敬己

関西学院大学社会学部教授  
北海道大学名誉教授  
法政大学国際日本学研究所客員所員

## 司会

山本 真鳥

法政大学名誉教授  
法政大学国際日本学研究所客員所員

## コメンテーター

高田 圭

法政大学国際日本学研究所専任所員

参加無料

オンライン開催  
(Zoom)



2021年5月22日(土)

13時～14時30分

事前申し込みが必要です

<https://forms.gle/3hm2DnXy1QttKmu79>